



業種
食品メーカー

導入部署・部門
ロジスティクス部

導入前の課題

- ・照合業務に多くの時間が掛かっている
- ・内製で社員が行うため固定費が掛かる
- ・外部に出すにしても初めてなので不安

導入後の成果

- ・照合業務の時間は大幅に減少
- ・外部に委託することで変動費にできる
- ・報告や提案もあり安心して任せられる

照合業務の時間が大幅に減少！ 委託の成果が出せて、東日本だけでなく西日本にも展開することに

中村屋様は、東京都新宿区に本社を置く食品メーカーです。「新宿中村屋」の名称で知られ、和菓子、洋菓子、パン類、中華まん、レトルト食品などの製造販売ならびに飲食店の営業を行っています。

中村屋様の東京事業所は渋谷区・笹塚にありましたが、ビルの建て替えに伴い移転を余儀なくされました。しかし、スペースの問題もあって丸ごと移転することができず、機能を分けることになったようです。オペレーションセクションの課長である下中様は、当時の状況を次のように語ります。

「神奈川・海老名にある事業所の一角に一部の機能を移転することになりました。それに伴って、会計業務を効率化できないかと考えたのです」



株式会社中村屋
ロジスティクス部 オペレーションセクション 課長
下中 様

理由はいくつかあったようです。ひとつは、人員の問題でした。下中様は続けて説明します。「笹塚の近所から何年も通っている従業員も多かったので、海老名に移転となると全員がそのまま通い続けるのも難しくなりました。とはいえ、すぐに会計の人員を採用できるわけでもありません」

そして、『照合業務に一番時間が掛かっていた』という問題もありました。業務量に応じて費用が掛かる「従量制」に切り替えることで、固定費ではなく変動費としてコントロールできるようにして、「変化に強い組織にした」といった狙いもあったようです。そうして、移転に伴って会計業務の一

部を委託しようと考えた中村屋様。会計照合を受託している会社の中から、最終的にパーソルビジネスプロセスデザインを選んだのでした。その理由として、主に『業務改善』『ランニングコスト』『BCP』の3点を挙げ、下中様は次のように解説してくださいました。

「パーソルビジネスプロセスデザインは九州にも拠点があり、何かあっても業務が継続できるだろうという点。そして、業務改善のご提案も併せていただいた点に感心しました。さらに、ランニングコスト面でも有利でしたので、長期的な視点でも優れていましたね」

そうして、パーソルビジネスプロセスデザインへ業務の移管を実施していった中村屋様。会計業務を外部で実施するための環境をどのように整えるか、という点で少し時間を要したものの、期日までには間に合わせることができました。

その後も毎月定例会を開き、中村屋様の課題やパーソルビジネスプロセスデザイン側の課題をしっかりと共有し、議論していく場を設けていきました。現在の状況をお伺いすると、小野沢様は照合業務について次のように説明してくださいました。

「お願いしてからは、スピードが全く変わりました。直前にバタバタするのではなく、早々に納品していただけますし、“答えの書いてある答案用紙”を見ながらやっている感じなので、しっかり日付管理ができるようになって助かっています」

続けて小野沢様は、携わる人数が減った点についても語ります。「人数が減っても、照合にかかる時間はそれ以上に減ったので『今まで20社担当

していたけど40社できるようになった』というように、一人ひとりの幅がすごく広がっています」



株式会社中村屋
ロジスティクス部 会計グループ 係長
小野沢 様

この点については下中様も「依頼する前は、やはり会計の中で一番時間が掛かっているところが照合でしたので、まず照合業務を委託することによって、一定の成果を少人数でも出せるという結果になりましたね」と付け加えてくださいました。

また、今回の事例を受けて中村屋様は、2023年4月、大阪営業所と福岡営業所の受注会計機能を大阪に集約させることに成功したのです。

「東日本での事例をそのまま適用させることができましたね」と笑顔になる下中様。加工・会計管理セクションの課長である都築様は、「まだまだ委託できる業務はある、と考えていますので引き続きご協力をお願いしたいですね」と語られました。



株式会社中村屋
ロジスティクス部 加工・会計管理セクション 課長
都築 様

